

(様式第4号)

神科・豊殿地域協議会 会議概要

1	審議会名	第2回 神科・豊殿地域協議会
2	日時	令和3年5月25日(火) 午前(後)7時00分から午前(後)8時30分まで
3	会場	豊殿地域自治センター(農村環境改善センター) 多目的ホール
4	委員出席者	浅川玲子委員、上原豊和委員、大久保孝子委員、近藤隆英委員、篠田正行委員、菅沼久美子委員、杉崎千代委員、竹内親吾委員、中村幸博委員、橋詰和政委員、堀田芳子委員、堀善三郎委員、柳澤明德委員、柳澤正敏委員、柳澤幹夫委員、山寄康示委員、渡辺洋美委員 17人
5	市側出席者	依田センター長、馬場政策幹、腰原主査、木角係長
6	公開・非公開等の別	公開・一部公開・非公開
7	傍聴者	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	令和3年6月2日 作成部局課名 上田地域自治センター(豊殿地域自治センター)

協議事項等

- 1 開会(依田センター長)
- 2 あいさつ(中村会長)
- 3 協議事項

(1) 「防災」について、提言に向けての今後の進め方

(事務局) まず「防災」についての関連事項として、5月20日から警戒レベル4で発令していた避難勧告が廃止され、レベル4の避難指示で危険な場所から必ず避難するようになった。避難指示がこれまでの避難勧告のタイミングで発令されることになったことを皆さまに御承知いただきたい。

さて、調査研究のテーマ「防災」については、今までの講演会をお聴きいただいたうえで皆さんからいただいたアンケートを基に課題検討資料としてまとめた。今後、市長へ提言する場においては以下のとおり計画している。

- ・6月 福祉課及び社協職員から共助に関わる支援マップ等の取扱いについての話しを聴く
- ・7・8月 南部地区自治連の方から凶上訓練等取組みについての話しを聴く
- ・9・10月 「防災」についての意見交換等協議を行い課題検討する
- ・11月 提言する方向であれば意見書提出のための課題をまとめる
- ・1月 意見書提出

(中村会長) 調査研究の今後の予定について説明されましたが、皆さんから質問ありますか。

(委員) 「防災」についてのまとめは講演会等の受講で理解できたが、自治会単位で具体的にどうすればよいか不明である。住民自治組織のなかで一番大事なのは自治会。例えば上田市ハザードマップで各自治会のなかの危険・安全箇所がはっきりわかる。でもそれが自治会のどれだけの人が周知しているか不明である。また、自主防災組織の隊長である自治会長が不在の場合は組織が運用できない。不在も想定して、例えば自治会長経験者が隊長になって運用する等々、自治会としてどのように防災活動をしていくのか大事だと思う。なお、要援護者の情報も自治会長または自治会のわずかの方しか周知していない。いざという時に自治会長不在であればどうするのか。そのあたりをきちんとまとめて提言していかないと何も役に立たないと思う。

(委員) 以前消防団の方のお話しを聞いた時に支援マップを自治会で作成してあるのに要援護者情報が消防団にいなかったため、助けたい方のお宅に行けなかったとの話しが出た。個人情報の問題があるのはわかる。マップも緊急時には提示してよいが、実際緊急時に提示どころではないと思う。助けてもらいたいのに情報が必要な消防団が要援護者のいらっしゃるお宅がわからないのでは困る。なぜ支援マップを共有してはいけないのか知りたい。

(事務局) 次回、福祉課の職員から支援マップ等の現状を説明してもらおうよう伝える。

(委員) 上田市の場合、社協と福祉課の形態が異なる。以前、福祉課に上田市で要援護者が何名いるかと問い合わせたところ、福祉課では不明であり、社協がその情報を把握しているとの返事もらった。上田市は基本的に組織がすべて縦割りでおかしいと思う。自治連は自治連、社協は社協。地区社協は自治連の充て職でやっている。さらに協議会、まちづくり委員会等がある。ところが、長野市の場合には社協がいちばん頭にある。福祉に対しては完璧で社協が総括している。どこの地区でもその形にしていけないと防災は動いていけないと思う。それぞれが単独で動いても何の価値もない。上田市の組織を根本的に見直していけないといけない気がする。

(事務局) 長野市の状況も今後確認していきたい。また次回までに課題検討資料に皆さん個々の意見を記入して事務局に送付いただきたい。

(2) その他 五中の整備計画について（教育施設整備室の資料に沿って事務局から説明）

4 その他

次回の会議日程 日程決定次第連絡する

5 閉会（山寄副会長）